

氏名	平松靖史
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 4308 号
学位授与の日付	平成21年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Use of micafungin versus fluconazole for antifungal prophylaxis in neutropenic patients receiving hematopoietic stem cell transplantation (造血幹細胞移植の好中球減少患者におけるミカファンギンとフルコナゾールによる抗真菌薬予防投与の比較試験)
論文審査委員	教授 小熊 恵二 教授 森島 恒雄 准教授 近藤 英作

学位論文内容の要旨

造血幹細胞移植患者に対するミカファンギン予防投与の有効性と安全性を評価するため、フルコナゾール標準治療と比較した前方視的無作為化比較試験をおこなった。成人の患者 106 症例を対象としてミカファンギン 150mg (n=52) もしくはフルコナゾール 400mg (n=52) を投与した。

予防投与終了時までには真菌感染の確定診断、推定診断、疑診例がないこと、あるいは予防投与終了後 4 週間までに確定診断、推定診断がないことを侵襲性真菌感染予防の成功と定義した。ミカファンギン群の全体的な有効性はフルコナゾールに匹敵した (94%対 88%; 群間差 6.0%; 95%の信頼区間 -5.4%~+17.4%; P=0.295)。ミカファンギン 150mg 投与による副作用の増加はなく、好中球減少期の患者においてフルコナゾール 400mg と同等の安全性を示した。

ミカファンギン 150mg は造血幹細胞移植患者の真菌予防を目的とした新しい価値のある治療選択となりうることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本論文は、造血幹細胞移植患者に時に発症する侵襲性の真菌感染症を予防するため、これまで使用されているフルコナゾールと近年開発されたミカファンギンの前方視的無作為化比較試験をおこなったものである。成人の患者 106 症例を対象としてミカファンギン 150mg (n=52) もしくはフルコナゾール 400mg (n=52) を投与したところ、ミカファンギン群の全体的な有効性はフルコナゾールに匹敵し、また、副作用の増加もないことから、ミカファンギン 150mg は造血幹細胞移植患者の真菌感染予防の治療選択となりうることを示した。

よって本研究は価値ある業績であり、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。